

よりそう

Side by Side



「勝手にやる」



こうおっしゃったのは、東亜リース(株)の社長の菊地信夫さん。10月22日(土)、岩手県奥州市水沢区で行われた同社主催の芋掘り会には、大槌・安渡地区と陸前高田・広田地区の仮設住宅の方約20名が遠野まごころネットとNPO法人NICCOのコーディネートの下、さつまいもと里芋の収穫に参加しました。

この畑、当初は小学校の給食や、老人ホーム等に配る予定で植えたものでしたが、秋になりこれから寒くなるからこのイモを使って仮設住宅の方のために芋煮会をしようということになったとのこと。菊池さん自身、これまでも様々な災害に際し、人や機材を現地に送り続けており、災害の悲惨さや被災者の方の苦勞を肌でご存知でいらっしゃる。「自分にも何か出来ることがあればどんどんやっていきたい。」それが菊池さんの「勝手にやる」精神です。

この芋掘り会、今後も各地の仮設住宅の方を御招待し、継続して開かれるとのこと。この日はあいにくの雨の中での芋掘り会でしたが、菊池さんの「これ以上悪いことはないだろう」という言葉が非常に印象的な一日でした。(大淵)



第二まごころの郷 オープン！

10月16日、大槌町の「第二まごころの郷」の開所式が開かれ、地元の方、近隣の仮設住宅の方を中心に約100人もの方が集まり、地域の新しい交流の場の完成を祝いました。分譲式家庭菜園、いわゆる貸し農園を中心に、麦畑を中心に構成される協働農園、お花畑、散歩のためのプロムナード、農業指導やイベントもできる「松

下園塾”、“憩いの松林”、“集会所”と地域のコミュニティ作り活躍しそうなスペースがまたひとつ、大槌に誕生しました。10月いっぱいにはさらに農地や施設の整備を行い、11月3日からの三連休をめぐりに落成式を執り行いたい、と宮本班長。農園の本格的な始動は雪が溶けた春から、とのことですが、すでに麦まきも始まっておりり今から春が来るのが楽しみです。



まごころの郷づくりレポート

Vol.9 寄稿:宮本班長
10月16日 開所式
「たくさん来てくれた」
一昨日の雨で水びたしの畑になってしまいましたが今日は開所式、なんとかこの日を迎えることができました。どれだけの地元の方が来てくれるかやきもきしてました。

でも始まって一安心、オープニングの所から子供達を連れてきたお母さんが来て、水仙の球根植えを手伝ってくれました。踏ん張ってくれたのが東京農大から来てくれた学生諸君。花壇を耕し、子供達に球根の植え方を考え、模擬店の準備を手伝い大車輪。そうこうしているうちに続々と人が集まって来ました。

学生達と一緒に畝をふるう方、「私も畑をしたい」と申し出てくれる方、大盛況です。約100人の方々が来場してくれました。

賑やかなイベントの一方で黙々と昨日からの続きの畑の水抜きをしてくれた方々、ありがとうございます。おかげで畑のレスキュー大成功です。

美しい歌声を聞かせてくれたクノキファミリー、完璧な巨大カステラを焼き上げてくれたふらいバンドさん、来場した方々をもてなしてくれた大槌カフェ隊、お茶っ子隊、ネイチャーゲームの方々、ありがとうございます。そして昨日チラシまきと畑の水抜きをしてくれたユータとサカイ両名、今日は歌でイベントを盛り上げてくれました。

みんなの力で作っていく「まごころの郷」スタート上々です。

10/22(土) 仮設住宅 86人 活動者167人

今日の雨がありがたかった。さつまいもを掘るの楽しさ。雨の中での芋掘り会。菊池さんの「勝手にやる」精神。第二まごころの郷のオープン。みんなの力で作っていく「まごころの郷」。

10/22(土) 仮設住宅 86人 活動者167人

ミーティングより：タラのミーティング前に履袋をしかたいで下さる。10-11は守りましよう。